

定期作況報告

平成21年11月(再訂正版)
(11月20日現在・最終)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：上旬の平均気温は平年より高く、中旬はやや高く、下旬は極めて低かった。4月の日平均気温は4.3℃で平年並であった(+0.2℃)。上・中旬の降水量は少なく、下旬は極めて多く、月合計は56.5mmで平年並であった。上旬の日照時間は平年より極めて多く、中・下旬は平年並で、月合計212.3時間で平年よりやや多かった。

5月：上旬の平均気温は平年より極めて高く、中・下旬は平年並であった。5月の日平均気温は11.7℃で平年よりやや高かった(+1.3℃)。上旬の降水量は平年より少なく、中旬は平年並、下旬はやや多く、月合計は41.0mmで平年よりやや少なかった。上・中旬の日照時間は平年より多く、下旬はやや少なく、月合計200.2時間で平年よりやや多かった。

6月：上旬の平均気温は平年よりやや高く、中旬は極めて低く、下旬は極めて高かった。6月の日平均気温は15.2℃で平年並であった(+0.1℃)。上旬の降水量は平年よりやや少なく、中旬は多く、下旬は平年並で、月合計は67.5mmで平年よりやや多かった。上旬の日照時間は平年よりやや少なく、中旬は少なく、下旬はやや多く、月合計は125.0時間で平年並であった。

7月：上旬の平均気温は平年よりやや高く、中旬は極めて低く、下旬は低かった。7月の月平均気温は16.9℃で平年よりやや低かった(-1.2℃)。上・中旬の降水量は平年より極めて多く、下旬は平年より多く、月合計は223.5mmで平年より極めて多かった。上旬の日照時間は平年並、中旬はやや少なく、下旬は少なく、月合計は92.4時間で平年よりやや少なかった。

8月：上旬の平均気温は平年並、中・下旬はやや低かった。8月の月平均気温は19.2℃で平年よりやや低かった(-0.6℃)。上旬の降水量は平年より少なく、中旬はやや少なく、下旬は少なく、月合計は48mmで平年よりやや少なかった。上旬の日照時間は平年より多く、中旬は少なく、下旬は平年並で、月合計は138.9時間で平年並であった。

9月：上旬の平均気温は低く、中旬はやや低く、下旬はやや高かった。月平均気温は14.4℃で平年よりやや低かった(-0.8℃)。上・中旬の降水量は平年よりやや少なく、下旬は少なく、月合計は71.5mmで平年よりやや少なかった。上旬の日照時間は平年並で、中・下旬はやや多く、月合計は180.5時間で平年よりやや多かった。

10月：上・中・下旬の平均気温は平年並であった。月平均気温は8.6℃で平年並であった(+0.1℃)。上旬の降水量は極めて多く、中旬は平年並、下旬はやや少なく、月合計は110.0mmで平年より多かった。上旬の日照時間は平年並、中旬はやや少なく、下旬は平年並で、月合計は153.0時間で平年並であった。なお、10月21日の平均気温と降水量はデータ欠測。

11月：上旬の平均気温は平年並、中旬はやや低かった。中旬までの日平均気温は2.0℃で平年並であった(-0.7℃)。上・中旬の降水量は極めて多く、中旬までの合計は64.0mmで平年より極めて多かった。上旬の日照時間は平年並、中旬の日照時間は少なく、中旬までの合計は64.6時間で平年よりやや少なかった。

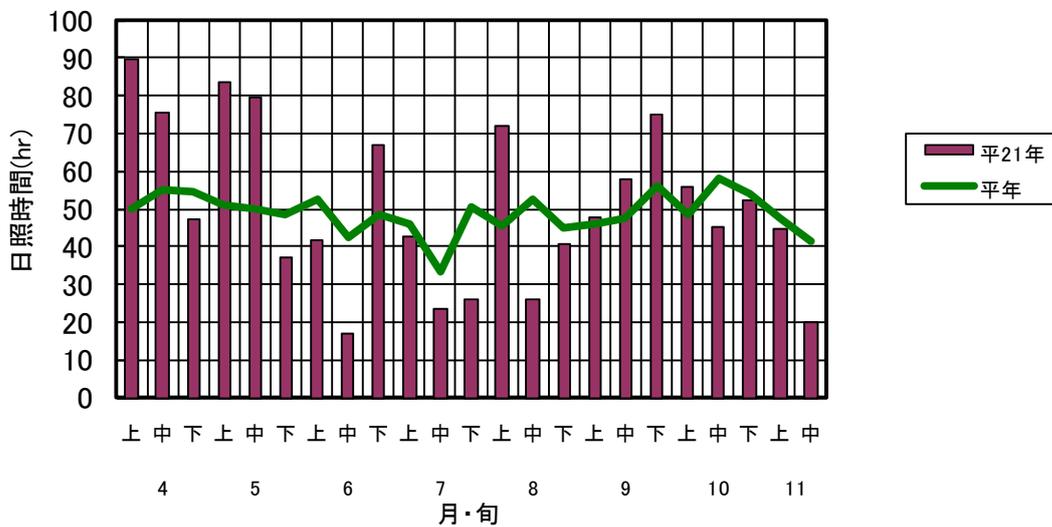
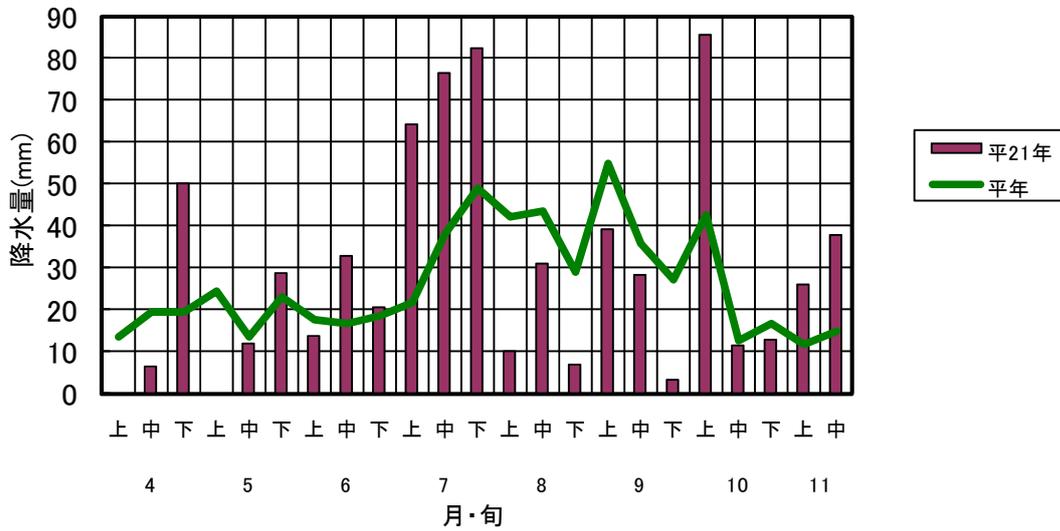
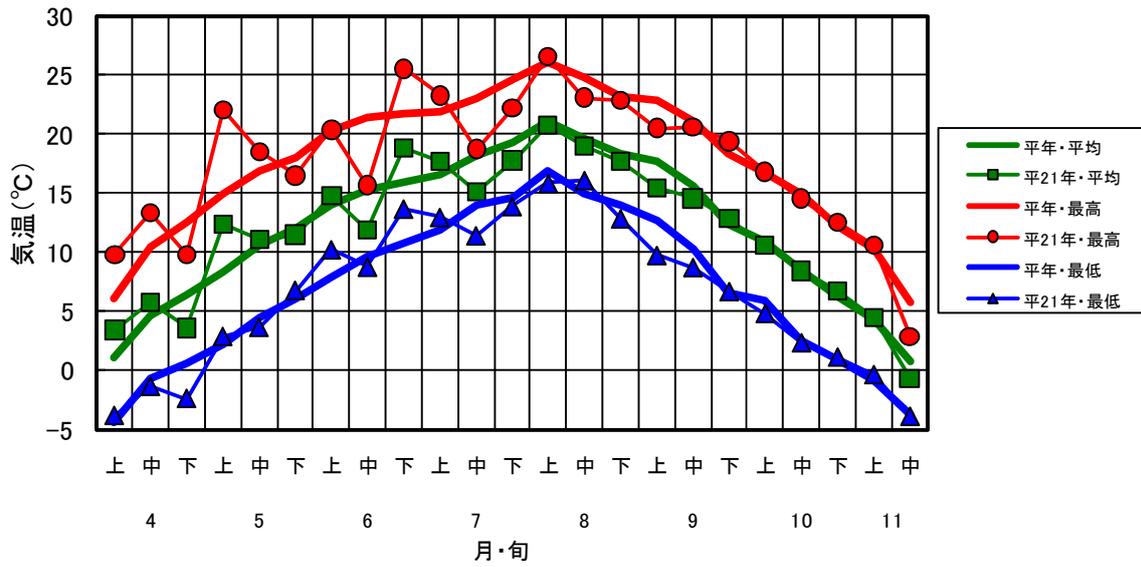
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

気温：5月は平年よりやや高く、6月は平年並、7月、8月、9月はやや低かった。この期間の平均気温の積算値は2368.7℃で平年並であった(平年対比-33.6℃)。

降水量：5月は平年よりやや少なく、6月はやや多く、7月は極めて多く、8月、9月はやや少なかった。この期間の降水量の積算は451.5mmで平年並であった(平年対比-5.4mm)。

日照時間：5月は平年より多く、6月は平年並、7月はやや少なく、8月は平年並、9月はやや多かった。この期間の日照時間の積算は737.0時間で平年並であった(平年対比+20.9時間)。

2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3) 気象表

月・旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較										
4	上	3.5	1.1	2.4	9.8	6.1	3.7	-3.8	-4.3	0.5	0.0	13.8	△ 13.8	89.4	49.9	39.5
	中	5.9	4.8	1.1	13.4	10.5	2.9	-1.3	-0.7	△ 0.6	6.5	19.4	△ 12.9	75.6	54.9	20.7
	下	3.6	6.4	△ 2.8	9.8	12.6	△ 2.8	-2.4	0.6	△ 3.0	50.0	19.6	30.4	47.3	54.6	△ 7.3
5	上	12.4	8.5	3.9	22.1	14.9	7.2	2.9	2.2	0.7	0.0	24.5	△ 24.5	83.6	51.1	32.5
	中	11.1	10.6	0.5	18.5	16.9	1.6	3.7	4.5	△ 0.8	12.0	13.6	△ 1.6	79.5	50.1	29.4
	下	11.5	12.0	△ 0.5	16.5	18.1	△ 1.6	6.8	6.2	0.6	29.0	23.3	5.7	37.1	48.7	△ 11.6
6	上	14.9	14.1	0.8	20.4	20.4	0.0	10.3	8.0	2.3	14.0	18.0	△ 4.0	41.6	52.6	△ 11.0
	中	12.0	15.3	△ 3.3	15.7	21.5	△ 5.8	8.8	9.7	△ 0.9	33.0	16.6	16.4	16.7	42.6	△ 25.9
	下	18.9	15.9	3.0	25.6	21.8	3.8	13.7	10.8	2.9	20.5	18.7	1.8	66.7	48.5	18.2
7	上	17.7	16.7	1.0	23.3	21.9	1.4	13.0	11.9	1.1	64.5	22.0	42.5	42.9	46.1	△ 3.2
	中	15.2	18.2	△ 3.0	18.8	23.1	△ 4.3	11.5	14.0	△ 2.5	76.5	38.2	38.3	23.7	33.1	△ 9.4
	下	17.8	19.4	△ 1.6	22.2	24.7	△ 2.5	14.0	14.7	△ 0.7	82.5	49.1	33.4	25.8	50.5	△ 24.7
8	上	20.8	21.1	△ 0.3	26.6	26.1	0.5	15.9	16.9	△ 1.0	10.0	42.5	△ 32.5	72.0	45.7	26.3
	中	19.0	19.7	△ 0.7	23.1	24.9	△ 1.8	16.2	15.0	1.2	31.0	43.5	△ 12.5	26.0	52.6	△ 26.6
	下	17.8	18.4	△ 0.6	22.9	23.2	△ 0.3	12.9	14.0	△ 1.1	7.0	29.0	△ 22.0	40.9	45.2	△ 4.3
9	上	15.5	17.7	△ 2.2	20.6	22.9	△ 2.3	9.8	12.8	△ 3.0	39.5	54.9	△ 15.4	47.9	46.0	1.9
	中	14.6	15.6	△ 1.0	20.7	21.2	△ 0.5	8.8	10.3	△ 1.5	28.5	36.1	△ 7.6	57.6	47.4	10.2
	下	13.0	12.4	0.6	19.5	18.3	1.2	6.7	6.7	0.0	3.5	27.3	△ 23.8	75.0	56.1	18.9
10	上	10.7	10.9	△ 0.2	16.9	16.8	0.1	4.9	5.9	△ 1.0	85.5	42.7	42.8	55.7	48.3	7.4
	中	8.5	8.5	0.0	14.6	14.9	△ 0.3	2.4	2.5	△ 0.1	11.5	12.6	△ 1.1	45.1	58.1	△ 13.0
	下	6.8	6.3	0.5	12.6	12.3	0.3	1.2	1.0	0.2	13.0	16.9	△ 3.9	52.2	54.3	△ 2.1
11	上	4.5	4.4	0.1	10.7	10.3	0.4	-0.3	-0.8	0.5	26.0	12.0	14.0	44.8	47.6	△ 2.8
	中	-0.6	0.9	△ 1.5	2.9	5.9	△ 3.0	-3.9	-3.7	△ 0.2	38.0	15.1	22.9	19.8	41.6	△ 21.8

注) 本年の観測値は、置戸町境野のアメダスデータ速報値である。

平年値は気象庁気象統計情報による置戸町境野の前10か年データの平均値である。

4) 季節表

項目 年次	前年 根雪始 月日	融雪 期 月日	根雪 期間 日数	耕鋤 始 月日	降雪 終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜 期間 日数	降雪 始 月日	農耕期間の積算(5~9月)		
										平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
本年	H20年 12.21	4.9	110	4.2*	5.14	4.25	10.12	169	10.31	2368.7	451.5	737.0
平年	11.29	4.11	133	4.2*	4.30	5.12	10.9	149	10.29	2402.3	456.9	716.1
比較	22	△2	△23	△2%	14	△17	3	20	2	△33.6	△5.4	20.9

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（平成20年9月播種） 作 況：不良

事 由：播種期および出芽期は平年並であった。9月中下旬の降水量は平年より少なく土壌が乾燥気味であったため、出芽はややばらついた。しかし、10月以降は適度な降雨があり、気温は平年並かやや高く推移したため、生育はほぼ斉一となり、越冬前の草丈は平年よりやや高く、茎数は平年並であった。根雪期間は平年より短く、雪腐病の発生はごく軽微で、生育への影響は無かった。融雪期以降、6月上旬まで平均気温は高温傾向であったことから、生育は平年より早く進み、出穂期は平年より6日早かった。6月中旬は低温および寡照多雨で推移したため、生育はやや徒長気味となり、草丈は平年より高く、茎数は平年よりやや多かった。6月下旬および7月上旬は高温傾向であったが、7月上旬から倒伏が発生し、7月中旬以降、再び低温および寡照多雨で推移した。成熟期は平年より1日遅い7月27日であった。稈長は平年より長く、穂長はほぼ平年並で、穂数は平年より多かった。しかし、子実重は平年対比91%と低収になり、リットル重ならびに千粒重も平年を下回った。子実の外観品質は充実不足でやや褪色しており、発芽粒がわずかにみられた。検査等級は規格外であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	ホクシン			
	本年	平年	比較	
播種期 (平成20年月.日)	9.17	9.17	0	
出芽期 (平成20年月.日)	9.24	9.24	0	
出穂期 (平成21年月.日)	6.5	6.11	△6	
成熟期 (平成21年月.日)	7.27	7.26	1	
草丈(cm)	(平成20年11月20日)	20.7	19.4	1.3
	(平成21年5月20日)	46.1	38.2	7.9
	(平成21年6月20日)	103.5	90.4	13.1
茎数(本/m ²)	(平成20年11月20日)	1801	1743	58
	(平成21年5月20日)	1380	1360	20
	(平成21年6月20日)	799	737	62
稈長(cm) (成熟期)	95	84	11	
穂長(cm) (成熟期)	8.1	8.2	△0.1	
穂数(本/m ²) (成熟期)	770	703	67	
子実重(kg/10a)	553	607	△54	
同上平年比(%)	91	100	△9	
リットル重(g)	779	810	△31	
千粒重(g)	37.3	37.9	△0.6	
品質(検査等級)	規格外	1	—	

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年の平均値。

2) 秋まき小麦（平成21年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は平年より3日早い9月15日に行った。出芽期は平年より2日早い9月23日であった。出芽期以降の平均気温は概ね平年並で推移し、降水量は平年より多く調査圃場はやや過湿気味となった。越冬前の草丈は平年よりやや低く、茎数は平年よりやや多い。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ホクシン		
	本年	平年	比較
播種期 (平成21年月.日)	9.15	9.18	△3
出芽期 (平成21年月.日)	9.23	9.25	△2
草丈(cm) (平成21年11月20日)	17.3	18.9	△1.6
茎数(本/m ²) (平成21年11月20日)	1925	1724	201

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最豊)、18年(最凶)を除く5か年の平均値。

3) 春まき小麦

作 況：不良

事 由：融雪期は平年より2日早い4月9日であった。その後、圃場の乾燥は順調に進み、播種期は平年より6日早い4月17日であった。播種後の気温は4月下旬が低温であったものの、降水により土壌水分が確保され、出芽期は平年より4～5日早かった。出芽後は高温傾向であったことから生育は進んだが、5月下旬以降、日照が少なく経過し、生育はやや徒長気味となった。6月中旬の低温により生育が停滞したが、6月下旬の気温が極めて高く推移したことから生育は回復し、出穂期はほぼ平年並となった。7月上旬の気温は高く推移し、降水量、日照時間が確保されたことから生育は旺盛となり、稈長は平年より長く、穂長は平年よりわずかに短く、穂数は平年を上回った。しかし、7月8日の強風と短時間豪雨により発生した倒伏および7月中下旬の日照不足により、成熟期は平年より3日遅く、子実の充実不良からリットル重、千粒重は平年を下回り、子実重は平年対比83%と極めて低収となった。検査等級は2等であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	4.17	4.23	△ 6	4.17	4.23	△ 6	
出芽期 (月・日)	5.3	5.7	△ 4	5.2	5.7	△ 5	
出穂期 (月・日)	6.25	6.24	1	6.24	6.24	0	
成熟期 (月・日)	8.11	8.8	3	8.10	8.7	3	
草丈 (cm)	(5月20日)	15.9	13.7	2.2	16.8	14.3	2.5
	(6月20日)	69.5	64.5	5.0	74.5	66.2	8.3
茎数 (本/m ²)	(5月20日)	451	360	91	432	377	55
	(6月20日)	773	717	56	812	747	65
稈長 (cm) (7月20日)	89	81	8	92	86	6	
穂長 (cm) (7月20日)	7.8	8.0	△ 0.2	7.7	8.1	△ 0.4	
穂数 (本/m ²) (7月20日)	613	497	116	666	498	168	
子実重 (kg/10a)	358	432	△ 74	386	463	△ 77	
同上平年比 (%)	83	100	△ 17	83	100	△ 17	
リットル重 (g)	774	816	△ 42	775	818	△ 43	
千粒重 (g)	34.0	40.8	△ 6.8	35.1	42.4	△ 7.3	
品質 (検査等級)	2	2	0	2	1	1	

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

4) とうもろこし(サイレージ用)

作 況：やや不良

事 由：播種期は平年より3日早い5月14日で、出芽期は平年より1日早い5月29日であった。出芽期以降は6月中旬の気温が平年より極めて低く推移したため、6月20日の草丈・葉数ともに平年を下回った。その後、7月中旬の気温が極めて低かったことから節間伸長が進まず、7月20日の葉数は平年並であったが、草丈は平年を下回った。また、7月下旬も引き続き低温に推移したため、開花期と抽糸期はともに平年より3日遅れた。その後は8月上旬が好天に恵まれたため、8月20日の草丈は平年を上回ったが、葉数は平年よりやや少なかった。収穫期は平年より4日遅い9月25日で、収穫時の子実の熟度は黄熟初期と、平年より登熟がやや遅れ、また総体の乾物率は平年より低かった。乾物総重は平年対比94%、推定TDN収量は平年対比92%であった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.14	5.17	△3	
出芽期 (月.日)	5.29	5.30	△1	
開花期 (月.日)	8. 8	8. 5	3	
抽糸期 (月.日)	8. 7	8. 4	3	
収穫期 (月.日)	9.25	9.21	4	
収穫期の熟度	黄熟初期	黄熟初～中期		
草丈(cm)	(6月20日)	24.4	32.2	△7.8
	(7月20日)	139.6	147.2	△7.6
	(8月20日)	315.8	295.1	20.7
稈長(cm)	(9月20日)	280	264	16
葉数(枚)	(6月20日)	4.1	4.7	△0.6
	(7月20日)	12.0	12.0	0.0
	(8月20日)	14.1	14.9	△0.8
生総重(kg/10a)	6720	6598	122	
乾物茎葉重(kg/10a)	1001	923	78	
乾物雌穂重(kg/10a)	831	1016	△185	
乾物総重(kg/10a)	1832	1939	△107	
同上平年比(%)	94	100	△6	
推定TDN収量(kg/10a)	1289	1400	△111	
同上平年比(%)	92	100	△8	
総体の乾物率(%)	27.3	29.6	△2.3	
乾雌穂重割合(%)	45.4	52.4	△7.0	
有効雌穂割合(%)	100.0	100.0	0.0	

注1) 平年値は前5か年の平均(供試品種を変更したため)。

注2) 推定TDN収量=乾物茎葉重×0.582+乾物雌穂重×0.850。

5) 大豆

作 況 : 不良

事 由：播種は平年並の5月22日に行った。出芽期はほぼ平年並であった。しかし、6月中旬の平均気温が極めて低く、また日照時間もやや少なかったため、初期生育は劣った。その後、6月下旬の気温が高かったことから生育はやや回復した。7月中～下旬の平均気温が極めて低かったため、開花始は平年より4日遅かった。成熟期は平年より2～4日遅れ、「トヨコマチ」が9月30日、「ユキホマレ」が10月1日であった。両品種とも着莢数は平年より6～8%少なかったものの、百粒重は平年を2～5%上回った。また、子実重は「トヨコマチ」で平年対比87%、「ユキホマレ」で89%と大きく下回った。これは開花期にあたる7月下旬が低温であったため、一莢内粒数が平年を下回ったと推測される。主茎長は「トヨコマチ」で平年をやや上回ったが、「ユキホマレ」は平年を下回った。主茎節数、分枝数は、両品種とも平年をやや下回った。子実の品質は平年をやや上回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.22	5.22	0	5.22	5.22	0	
出芽期 (月.日)	6.6	6.6	0	6.6	6.7	△ 1	
開花始 (月.日)	7.24	7.20	4	7.24	7.20	4	
成熟期 (月.日)	9.30	9.26	4	10.1	9.29	2	
主茎長 (cm)	(6月20日)	6.2	10.2	△ 4.0	6.6	9.3	△ 2.7
	(7月20日)	40.0	43.9	△ 3.9	36.0	43.5	△ 7.5
	(8月20日)	63.8	63.2	0.6	57.8	62.6	△ 4.8
	(9月20日)	64.3	62.6	1.7	56.3	62.1	△ 5.8
	(成熟期)	64.3	62.6	1.7	56.3	62.1	△ 5.8
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.4	0.8	△ 0.4	0.4	0.7	△ 0.3
	(7月20日)	6.3	6.6	△ 0.3	6.1	6.4	△ 0.3
主茎節数	(8月20日)	10.7	11.4	△ 0.7	10.6	11.3	△ 0.7
	(9月20日)	11.1	11.4	△ 0.3	10.4	11.2	△ 0.8
	(成熟期)	11.1	11.4	△ 0.3	10.4	11.2	△ 0.8
分枝数 (本/株)	(7月20日)	3.0	3.1	△ 0.1	2.5	2.7	△ 0.2
	(8月20日)	5.0	5.8	△ 0.8	4.4	5.3	△ 0.9
	(9月20日)	4.7	5.5	△ 0.8	4.5	5.0	△ 0.5
	(成熟期)	4.7	5.5	△ 0.8	4.5	5.0	△ 0.5
着莢数 (個/株)	(8月20日)	59.4	66.1	△ 6.7	61.5	63.8	△ 2.3
	(9月20日)	59.2	63.8	△ 4.6	64.6	68.2	△ 3.6
	(成熟期)	57.5	62.7	△ 5.2	63.9	68.2	△ 4.3
子実重 (kg/10a)	305	349	△ 44	306	373	△ 67	
同上平年比 (%)	87	100	△ 13	82	100	△ 18	
百粒重 (g)	35.7	33.9	1.8	35.4	34.2	1.2	
屑粒率 (%)	0.5	1.7	△ 1.2	0.2	1.7	△ 1.5	
品質 (検査等級)	2下	3上	—	2中	2下	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成14年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

6) 小豆

作 況 : 良

事由：播種は平年並の5月22日に行った。出芽期はほぼ平年並であった。しかし、6月中旬の平均気温が極めて低かったため、初期生育は平年より劣った。開花始は7月中～下旬の平均気温が極めて低かったため、平年より4～5日遅かった。さらに、8月下旬～9月中旬の気温が平年よりやや低かったため、着莢数は少なくなり、登熟は遅れた。成熟期は「サホロショウズ」が平年より11日遅い9月30日、「エリモショウズ」が5日遅い10月5日であった。登熟期間中、9月下旬から10月上旬の気温が平年並～やや高く、日照時間も平年並～やや多かったことから、粒は著しく肥大し、百粒重は平年を25～27%上回った。そのため、着莢数は平年を9～10%下回ったものの、子実重は平年を9～11%上回った。主莖節数、分枝数は、平年並ないし平年をやや下回った。子実の品質は両品種とも色浅粒、未熟粒の比率が高く、平年より劣った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.22	5.22	0	5.22	5.22	0	
出芽期 (月.日)	6.9	6.9	0	6.9	6.10	△ 1	
開花始 (月.日)	7.29	7.24	5	7.30	7.26	4	
成熟期 (月.日)	9.30	9.19	11	10.5	9.30	5	
主莖長 (cm)	(6月20日)	2.5	3.7	△ 1.2	2.3	3.8	△ 1.5
	(7月20日)	11.5	14.4	△ 2.9	11.6	15.3	△ 3.7
	(8月20日)	54.4	56.3	△ 1.9	50.8	61.8	△ 11.0
	(9月20日)	62.5	59.7	2.8	53.6	68.0	△ 14.4
	(成熟期)	62.5	59.7	2.8	53.6	68.0	△ 14.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.1	0.3	△ 0.2	0.1	0.2	△ 0.1
	(7月20日)	5.1	5.4	△ 0.3	4.7	5.5	△ 0.8
主莖節数	(8月20日)	10.2	11.9	△ 1.7	10.9	13.3	△ 2.4
	(9月20日)	12.0	12.1	△ 0.1	12.6	13.9	△ 1.3
	(成熟期)	12.0	12.1	△ 0.1	12.6	13.9	△ 1.3
分枝数 (本/株)	(7月20日)	0.1	1.6	△ 1.5	0.3	1.4	△ 1.1
	(8月20日)	3.9	5.2	△ 1.3	2.5	4.9	△ 2.4
	(9月20日)	3.5	4.3	△ 0.8	2.5	4.4	△ 1.9
	(成熟期)	3.5	4.3	△ 0.8	2.5	4.5	△ 2.0
着莢数 (個/株)	(8月20日)	28.5	51.1	△ 22.6	33.6	35.6	△ 2.0
	(9月20日)	47.2	54.7	△ 7.5	44.8	51.0	△ 6.2
	(成熟期)	50.5	55.8	△ 5.3	47.4	52.6	△ 5.2
子実重 (kg/10a)	423	388	35	480	432	48	
同上平年比 (%)	109	100	9	111	100	11	
百粒重 (g)	19.3	15.2	4.1	18.7	15.0	3.7	
屑粒率 (%)	2.2	3.0	△ 0.8	4.8	2.7	2.1	
品質 (検査等級)	4上	2下	—	4上	3上	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

7) 菜豆

作況：やや良

事由：播種は平年並の5月22日に行った。出芽期は平年並であった。6月中旬の平均気温が極めて低く、また日照時間もやや少なかったため、初期生育は劣った。しかし、6月下旬の気温が極めて高かったことから生育は大きく回復した。開花始は7月中旬が極めて低温に推移したため、「大正金時」で3日、「福勝」で2日遅れた。8月下旬～9月上旬の平均気温はやや低かったものの、登熟は順調に進み、成熟期は「大正金時」で2日、「福勝」で1日遅れに留まった。両品種ともに、着莢数は平年並～やや下回ったが、百粒重は平年を上回った。子実重は「大正金時」で平年対比7%、「福勝」で8%上回った。両品種ともに、草丈は平年を上回り、主茎節数、分枝数は平年並である。子実の品質は平年よりやや劣った。

以上のことから、今年の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時			福勝			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.22	5.22	0	5.22	5.22	0	
出芽期 (月.日)	6.6	6.6	0	6.7	6.7	0	
開花始 (月.日)	7.9	7.6	3	7.10	7.8	2	
成熟期 (月.日)	9.6	9.4	2	9.9	9.8	1	
草丈 (cm)	(6月20日)	8.8	10.3	△ 1.5	8.3	9.4	△ 1.1
	(7月20日)	37.5	36.3	1.2	38.2	36.6	1.6
	(8月20日)	45.7	39.2	6.5	50.0	41.4	8.6
	(9月20日)	45.6	41.1	4.5	50.5	43.0	7.5
	(成熟期)	45.6	41.1	4.5	50.5	43.0	7.5
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.4	0.9	△ 0.5	0.4	0.9	△ 0.5
	(7月20日)	3.1	3.4	△ 0.3	3.2	3.7	△ 0.5
主茎節数	(8月20日)	5.2	5.4	△ 0.2	5.2	5.8	△ 0.6
	(9月20日)	5.3	5.4	△ 0.1	5.2	5.7	△ 0.5
	(成熟期)	5.3	5.4	△ 0.1	5.2	5.7	△ 0.5
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.7	4.1	0.6	4.9	3.9	1.0
	(8月20日)	5.0	4.6	0.4	4.7	4.2	0.5
	(9月20日)	3.9	4.2	△ 0.3	4.3	4.0	0.3
	(成熟期)	3.9	4.2	△ 0.3	4.3	4.0	0.3
着莢数 (個/株)	(8月20日)	17.9	23.2	△ 5.3	17.7	21.0	△ 3.3
	(9月20日)	17.7	20.2	△ 2.5	18.2	18.7	△ 0.5
	(成熟期)	17.7	20.2	△ 2.5	18.2	18.7	△ 0.5
子実重 (kg/10a)	358	336	22	409	379	30	
同上平年比 (%)	107	100	7	108	100	8	
百粒重 (g)	76.2	75.0	1.2	95.2	91.3	3.9	
層粒率 (%)	2.0	5.3	△ 3.3	1.7	5.2	△ 3.5	
品質 (検査等級)	3下	3上	—	3下	3中	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

8) ばれいしょ

作 況 : やや不良

事由: 植え付けは5月11日に行い、「男爵薯」、「コナフブキ」ともほぼ平年と同時期であった。植え付け後、気温は平年並に推移し、適度な降雨もあったことから萌芽期も平年並であった。開花始もほぼ平年並であったが、7月上中旬の多雨と7月中旬の寡照の影響を受け、茎長は平年を上回って推移し、地上部は徒長気味となった。枯凋期は、「男爵薯」で平年より7日、「コナフブキ」で9日早かった。上いも重は、「男爵薯」では塊茎の肥大が順調に進んだことから平年をやや上回ったが、「コナフブキ」は生育期間が短かったことから平年をやや下回った。でん粉価は、7月の多雨以降、長期にわたり土壌が湿潤な状態であった影響を受け、「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年を大きく下回った。このため、「コナフブキ」のでん粉重は平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.11	5.12	△ 1	5.11	5.13	△ 2	
萌芽期 (月.日)	6.1	6.1	0	6.3	6.3	0	
開花始 (月.日)	6.29	6.30	△ 1	6.30	7.1	△ 1	
枯凋期 (月.日)	8.26	9.2	△ 7	9.28	10.7	△ 9	
茎長 (cm)	(6月20日)	22.3	16.2	6.1	25.7	16.7	9.0
	(7月20日)	48	38	10	72	59	13
	(8月20日)	46	42	4	86	74	12
茎数 (本/株)	(6月20日)	3.5	3.5	0.0	3.2	2.8	0.4
	(7月20日)	3.6	3.4	0.2	3.6	2.9	0.7
	(8月20日)	3.9	3.1	0.8	3.1	3.0	0.1
上いも重 (kg/10a)	(8月20日)	4614	4005	609	3238	3441	△ 203
	(9月20日)	—	—	—	4672	4479	193
でん粉価 (%)	(8月20日)	14.0	15.8	△ 1.8	19.9	20.6	△ 0.7
	(9月20日)	—	—	—	20.2	22.4	△ 2.2
でん粉重 (kg/10a) (9月20日)	—	—	—	900	955	△ 55	
上いも数 (個/株)	12.2	8.9	3.3	11.2	9.5	1.7	
上いも1個重 (g)	81	102	△ 21	94	115	△ 21	
上いも重 (kg/10a)	4237	4009	228	4658	4873	△ 215	
同上平年比 (%)	106	100	6	96	100	△ 4	
でん粉価 (%)	13.5	15.6	△ 2.1	20.7	22.6	△ 1.9	
でん粉重 (kg/10a)	—	—	—	902	1052	△ 150	
同上平年比 (%)	—	—	—	86	100	△ 14	

注) 平年値は前7か年中、平成15(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況：やや良

事 由：移植栽培の播種は平年より4日早い3月18日に行い、育苗中の生育は順調であった。移植は平年並の5月7日に行った。移植後の降雨により活着は良好であった。直播栽培の播種は平年並の5月7日に行い、出芽期は平年より3日早かった。5月下旬～6月上旬の平均気温は平年並で、適度な降雨もあり、生育は順調であったが、6月中旬は著しい低温・日照不足のため生育はやや停滞した。7月は降水量が多かったことから、根部の肥大は移植栽培では順調に進んだが、直播栽培ではやや停滞した。7月中下旬が低温で、その後も気温は平年よりやや低めに推移したため、移植栽培、直播栽培ともに茎葉重は平年を下回り、収穫期までその差は拡大した。また、8月上旬から9月下旬まで降水量が少なかったため、根部の肥大も抑制された。10月上旬は一転して降水量が多く、土壌水分が適度に保たれたため、収穫時の根重は移植栽培ではほぼ平年並に回復した。しかし、直播栽培では平年を下回ったままであった。根中糖分は、8月下旬以降、気温の日較差が大きかったため、平年を大きく上回った。収穫は平年並の10月20日に行った。移植栽培の根重は2品種平均で平年対比102%、根中糖分は108%、糖量は109%、直播栽培の根重は平年対比93%、根中糖分は109%、糖量は102%である。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

表 その1

調査項目	移植						直播			
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.18	3.22	△4	3.18	3.22	△4	5.7	5.8	△1	
移植期 (月.日)	5.7	5.8	△1	5.7	5.8	△1	—	—	—	
出芽期 (月.日)	—	—	—	—	—	—	5.16	5.19	△3	
収穫期 (月.日)	10.20	10.19	1	10.20	10.19	1	10.20	10.19	1	
草丈 (cm)	(6月20日)	29.2	26.5	2.7	28.2	26.5	1.7	13.5	14.4	△0.9
	(7月20日)	57.5	56.6	0.9	52.7	53.6	△0.9	53.5	49.6	3.9
	(8月20日)	59.4	64.4	△5.0	55.4	60.7	△5.3	56.8	64.3	△7.5
	(9月20日)	59.3	66.1	△6.8	54.4	60.2	△5.8	60.4	66.8	△6.4
生葉数 (枚)	(6月20日)	11.5	11.4	0.1	10.6	10.7	△0.1	6.3	6.5	△0.2
	(7月20日)	22.7	20.9	1.8	21.6	20.0	1.6	19.1	19.0	0.1
	(8月20日)	28.1	27.1	1.0	28.5	27.3	1.2	25.0	26.8	△1.8
	(9月20日)	30.6	30.5	0.1	27.6	30.0	△2.4	27.1	28.6	△1.5
茎葉重 (g/個体)	(6月20日)	118	103	15	107	99	8	11	15	△4
	(7月20日)	686	701	△15	663	670	△7	497	485	12
	(8月20日)	883	946	△63	929	1004	△75	762	927	△165
	(9月20日)	741	983	△242	709	1045	△336	701	979	△278
根重 (g/個体)	(6月20日)	20	19	1	19	19	0	1	1	0
	(7月20日)	292	264	28	289	272	17	120	127	△7
	(8月20日)	665	633	32	791	701	90	425	477	△52
	(9月20日)	873	890	△17	899	965	△66	692	754	△62
根周 (cm)	(7月20日)	22.4	21.3	1.1	23.2	22.6	0.6	17.0	17.0	0.0
	(8月20日)	30.0	29.2	0.8	32.8	31.7	1.1	25.6	26.6	△1.0
	(9月20日)	33.9	33.2	0.7	34.2	35.7	△1.5	30.4	31.2	△0.8
根中糖分 (%)	(9月20日)	16.31	14.93	1.38	16.82	15.05	1.77	16.13	14.67	1.46

表 その2

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (収穫期)	4412	6297	△1885	4811	6345	△1534	4181	5919	△1738
根重 (kg/10a) (収穫期)	6891	6648	243	7073	7065	8	5392	5775	△383
同上平年比(%)	104	100	4	100	100	0	93	100	△7
根中糖分(%) (収穫期)	18.64	17.40	1.24	19.26	17.73	1.53	18.84	17.32	1.52
同上平年比(%)	107	100	7	109	100	9	109	100	9
糖量 (kg/10a)	1284	1155	129	1362	1264	98	1016	999	17
同上平年比(%)	111	100	11	108	100	8	102	100	2

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : 不良

事 由 : 萌芽期は4月21日と平年より4日遅く、冬損程度は平年並であった。1番草は出穂始が平年より2日早い6月11日で、出穂期は平年より1日早い6月18日であった。また、6月中旬の気温が平年と比べ極めて低く推移したことにより生育が停滞し、草丈は平年並であったが、生草収量と乾物率は平年を下回り、乾物収量は平年対比82%と少なかった。2番草は生育期間の後半にあたる7月中下旬に低温寡照で推移したことにより、草丈と節間伸長程度は平年を下回り、乾物収量は平年対比53%と少なかった。3番草は草丈が平年よりやや低く、生草収量は少なかったが、乾物率が高かったため、乾物収量は平年対比114%と多かった。年間合計乾物収量は平年対比81%と平年を大きく下回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

表 その1

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.21	4.17	4
冬損程度		1.0	1.5	△0.5
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.11	6.13	△2
出穂期	(月.日)	6.18	6.19	△1
出穂程度	1番草	5.3	5.4	△0.1
節間伸長程度	2番草	2.8	3.3	△0.5
刈取日(月.日)	1番草	6.18	6.20	△2
	2番草	8.7	8.9	△2
	3番草	10.1	10.5	△4
倒伏程度	1番草	1.0	1.6	△0.6
病害罹病程度	1番草	3.3	1.8	1.5
	2番草	3.5	3.6	△0.1
	3番草	4.0	4.4	△0.4
草丈(cm)	(5月18日)	36	38	△2
	(6月5日)	73	73	0
	1番草	102	101	1
	2番草再生時	38	35	3
	2番草	55	62	△7
	3番草再生時	42	43	△1
	3番草	42	47	△5
生草収量(kg/10a)	1番草	2315	2685	△370
	2番草	476	1020	△544
	3番草	505	634	△129
	合 計	3296	4338	△1042
乾物率(%)	1番草	23.0	24.9	△1.9
	2番草	25.3	22.5	2.8
	3番草	36.8	27.4	9.4

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量(kg/10a)	1番草	532	649	△117
	同上平年比(%)	82	100	△18
	2番草	120	225	△105
	同上平年比(%)	53	100	△47
	3番草	186	163	23
	同上平年比(%)	114	100	14
	合計	839	1038	△199
	同上平年比(%)	81	100	△19

注1) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、平成19年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

11) たまねぎ 作 況：やや不良

事 由：播種は、早生種「改良オホーツク1号」では平年より3日早い3月3日、晩生種「スーパー北もみじ」では平年並の3月10日に行った。育苗期間中は高温に推移し、苗の生育は概ね順調であった。移植は、「改良オホーツク1号」では平年より1日早い5月7日、「スーパー北もみじ」では平年より1日遅い5月13日に行った。移植時の苗質は、「改良オホーツク1号」、「スーパー北もみじ」ともほぼ平年並であった。5月18～19日の強風により葉に著しい損傷を受けた一部の調査区で地上部生育が遅れたものの、5月下旬～6月上旬は平年並の気温に推移し、適度な降雨もあったことから生育は回復した。6月中旬、7月中下旬は極低温に経過したものの生育は概ね順調であった。しかし、7月全般の多雨と7月下旬の低温により、ほ場全体に白斑葉枯病、小菌核病並びにべと病が発生した。倒伏期は、「改良オホーツク1号」では平年より2日遅い8月5日、「スーパー北もみじ」では平年より3日遅い8月16日であった。「改良オホーツク1号」は平年より6日遅い9月8日に収穫した。平均一球重は平年より大きいのが、肌腐れ症が多発(約10%)したことにより総収量は平年並であった。規格内率は平年より5%高く、規格内収量は平年対比107%であった。「スーパー北もみじ」は8月31日に根切り処理を行い、平年より3日遅い9月17日に収穫した。規格内率並びに平均一球重は平年並であったものの、肌腐れ症の多発(約10%)により総収量は平年より低くなり、規格内収量は平年対比で9%下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目		改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	3.3	3.6	△ 3	3.10	3.10	0
出芽期	(月.日)	3.17	3.18	△ 1	3.22	3.24	△ 2
移植期	(月.日)	5.7	5.8	△ 1	5.13	5.12	1
球肥大期	(月.日)	7.7	7.7	0	7.23	7.21	2
倒伏期	(月.日)	8.5	8.3	2	8.16	8.13	3
枯葉期	(月.日)	8.31	8.24	7	9.14	9.9	5
収穫期	(月.日)	9.8	9.2	6	9.17	9.14	3
草丈(cm)	移植時	25.9	25.2	0.7	26.4	23.1	3.3
	(6月20日)	38.4	42.5	△ 4.1	29.3	34.8	△ 5.5
	(7月20日)	82.1	73.8	8.3	84.2	79.3	4.9
生葉数(枚)	移植時	3.5	3.1	0.4	3.5	3.1	0.4
	(6月20日)	6.0	6.0	0.0	5.5	5.7	△ 0.2
	(7月20日)	9.1	9.3	△ 0.2	9.9	10.5	△ 0.6
葉鞘径(mm)	移植時	4.1	4.2	△ 0.1	4.0	4.0	0
	(6月20日)	9.7	10.1	△ 0.4	7.9	8.5	△ 0.6
	(7月20日)	20.9	19.2	1.7	22.2	20.9	1.3
葉身生重(g)	(7月20日)	136.0	107.0	29.0	138.7	126.3	12.4
球生重(g)	(7月20日)	101.2	98.6	2.6	52.1	50.7	1.4
	(8月20日)	272.9	246.5	26.4	240.2	253.6	△ 13.4
総収量(kg/10a)		7178	7238	△ 60	7037	8130	△ 1093
規格内収量(kg/10a)		6547	6111	436	6224	6807	△ 583
同上平年比(%)		107	100	7	91	100	△ 9
規格内率(%)		91	86	5	88	83	5
平均一球重(g)		273	236	37	265	268	△ 3

注) 平年値は平成15年から平成19年までの5か年の平均(平成20年は暴風雨被害により成績を参考扱いとして除く)。

付表1 各作物の耕種概要

作物名	一区面積 (㎡)	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	一株本数	播種粒数 (粒/㎡)	播種量 (kg/10a)	株数 (株/10a)
1. 秋まき小麦	6.0	4	緑肥大豆	30.0	条播	-	255	-	-
2. 春まき小麦	6.0	4	緑肥大豆	30.0	条播	-	340	-	-
3. とうもろこし	11.2	3	緑肥えん麦	75.0	17.8	1	-	-	7,491
4. 大豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	-	-	8,333
5. 小豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	-	-	8,333
6. 菜豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	-	-	8,333
7. ばれいしょ	37.8	3	緑肥えん麦	75.0	30.0	1	-	-	4,444
8. てんさい	43.2	3	緑肥野生えん麦	60.0	23.8	1	-	-	7,003
9. 牧草 (チモシー)	2.7	4	緑肥えん麦	30.0	条播	-	-	2.0	-
10. たまねぎ	10.0	2	たまねぎ	30.0	10.5	1	-	-	31,750

付表2 各作物の耕種概要

作物名	施肥量 (kg/10a)						備考
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	その他	
1. 秋まき小麦	6.0	20.0	9.7	3.8		起生期追肥 N:3.0	2年目草地 年間3回分施
2. 春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0			
3. とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0	3,000	炭カル:150	
4. 大豆	1.8	15.0	7.8	3.0			
5. 小豆	4.0	20.0	11.2	4.0			
6. 菜豆	4.0	17.7	8.2	2.7			
7. ばれいしょ	8.0	20.0	14.0	5.0			
8. てんさい	15.0	21.3	13.8	5.0			
9. 牧草 (チモシー)	15.0	15.0	15.0	2.3			
10. たまねぎ	15.0	30.0	15.0	3.5	2,000		